

令和2年産 美里地区の大豆情報



第2号 令和2年7月27日

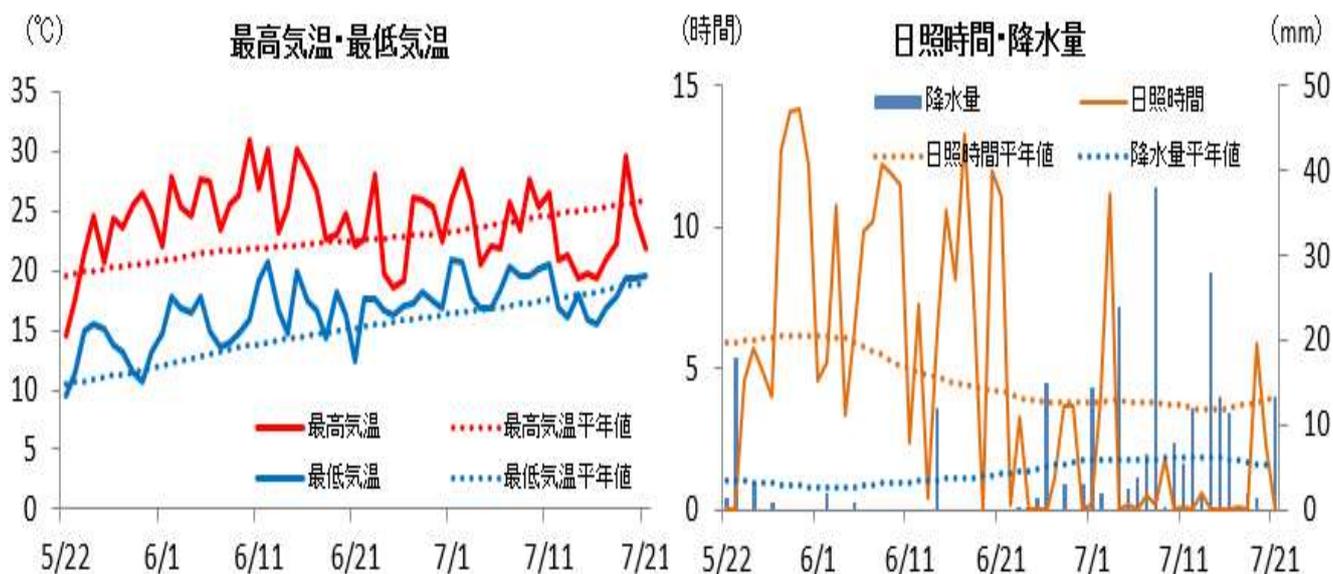
宮城県美里農業改良普及センター

TEL:0229-32-3115

FAX:0229-32-2225

<http://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>

1 気象経過及び生育状況



【本年産大豆の生育の特徴】

【標播】

- ・5月23日の降水(18mm)の影響もあり、5月下旬～6月第1半旬頃まで播種したほ場では出芽揃いは非常に良好となった。その後、6月11日に梅雨入りしたが、この間6月14日(12mm)までまとまった降水がなかったことから、6月第2～第3半旬頃の播種ではほ場が著しい乾燥状態となり、出芽にばらつきの見られたほ場が増加した。
- ・6月第5半旬ころから、播種の早かったほ場から1回目の中耕培土作業が行われるようになったが、6月26日の降水(15mm)や小麦の刈取時期が重なって作業中断しているうちに、6月30日以降7月16日までほぼ連続(7月3日を除く)した降雨が観測され、中耕培土や除草などの管理作業に遅れが出てきている。
- ・気象の影響もあり、湿害症状や生育停滞が広域的に見られる状況となっている。

【麦後晩播】

- ・小麦の収穫作業自体が降雨の合間を縫った作業となったため、その後の大豆播種についても予定どおりに実施できていないところが多い。播種できたほ場でも、湿害傾向の生育となっているところが多い。

2 今後の管理

(1) 湿害対策 早急に排水対策を実施して、生育量を確保しましょう

- ・ 麦後の播種や中耕培土、除草などの作業が一日でも早く実施できるようほ場の排水機能を確認・改善して、ほ場表面や明きよの停滞水を無くしましょう。
- ・ 湿害により葉色が著しく淡い場合や生育不良が顕著な場合には、速効性肥料（窒素成分で2～3kg/10a程度）を施用して生育回復を図りましょう。

(2) 播種 麦後では晩播狭畦栽培（タンレイ）を検討しましょう

- ・ 晩播狭畦栽培で、収量や粒大を確保できる播種時期は7月中旬までです。7月下旬以降は大幅に減収する可能性があります。
- ・ 条間は27～33cm程度、株間は20～25cm程度（播種量は7.2～11.1kg/10a）です。
- ・ 中耕培土が実施できないため、播種後の土壌処理除草剤の効果の高いほ場に限ります。

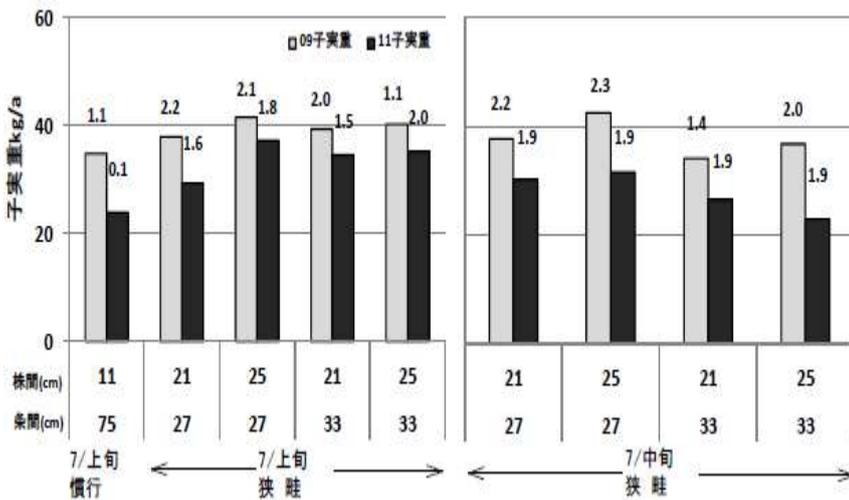


図 栽植密度別、播種時期別子実重

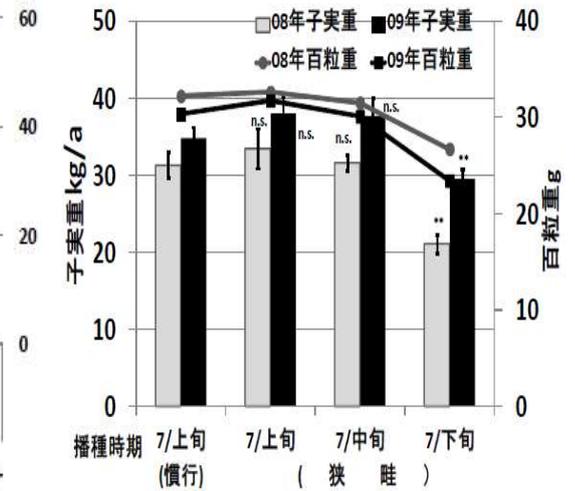


図 播種時期別子実重及び百粒重

(3) 中耕・培土 梅雨の合間を見つけて作業を実施しましょう

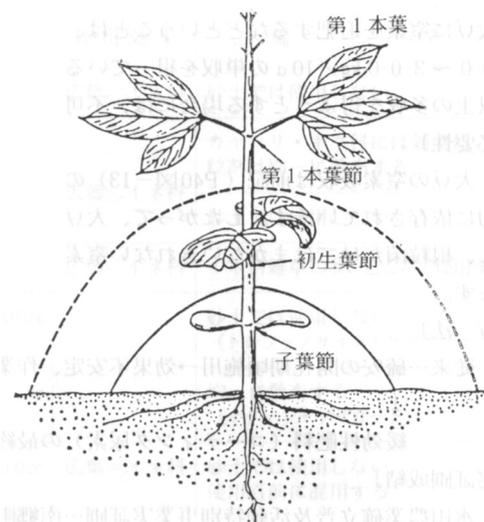


図 中耕培土の目安

普通栽培

- 1回目：本葉2～3葉期に子葉節が隠れる高さまで
- 2回目：6～7葉期に初生葉が隠れる高さまで

晩播栽培（麦後）

- 本葉5～6葉期に子葉節が隠れる程度の高さまで

※不定根の発生による生育促進、増収、倒伏防止、土壌通気性・排水性の改善、除草等の効果があります。

※遅い時期の中耕・培土は、主茎や分枝の損傷、断根により生育に支障を来すため、開花の10日前までには終えるようにしましょう。

※本年は湿害により根粒菌の発達にも影響が大きいとみられるので、開花期から幼莢期に肥効を発現させる被覆肥料による培土期追肥（40日タイプを使用し、窒素成分で5kg/10a程度）を検討しましょう。

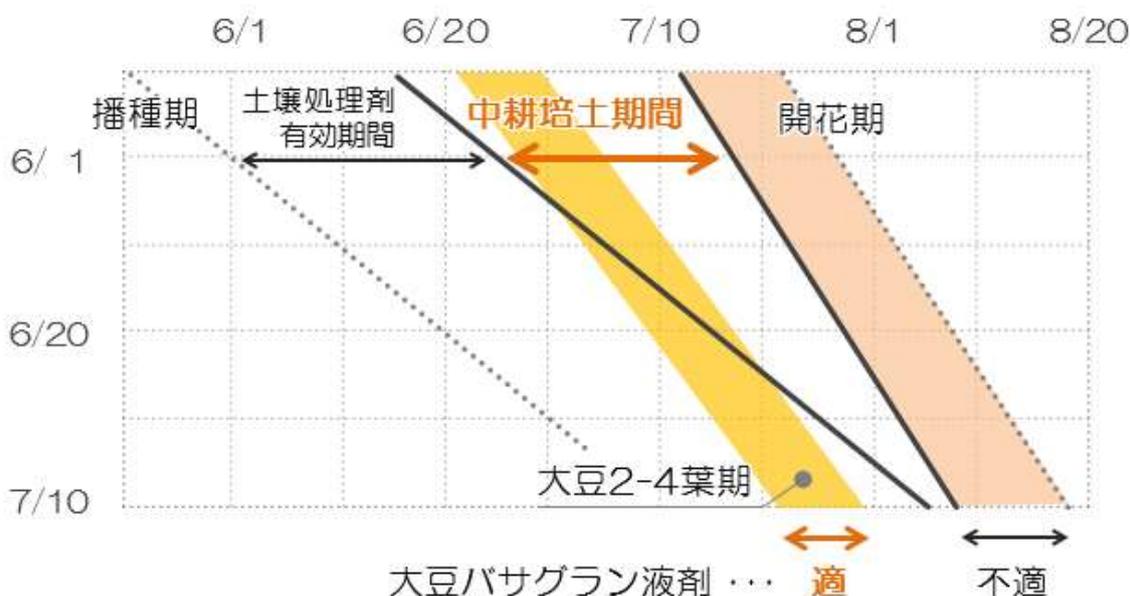
(4) 追肥 開花期から幼莢期の窒素養分吸収を補いましょう

- ・乾物生産が旺盛となる開花期から幼莢期の窒素供給は増収効果があります。
- ・根粒菌の活動を抑制しにくい被覆肥料（40日タイプ、窒素成分で5kg/10a）を使った最終培土期（普通播栽培は7月中旬（本葉6～7葉期）、晩播栽培は8月上旬（本葉5～6葉期））を検討しましょう。

(5) 雑草防除 雑草対策の第一は大豆の生育を良好にすることです

- ・本年は後手に回っているほ場が多く、時間的にも完璧な除草対策を実施することは困難と見られるので、ほ場ごとに実施可能な作業を判断して、できることから着手しましょう。
- ・「排水の手直し」、「中耕」、「中耕培土」、「茎葉処理除草剤」、「畦間・株間の機械・薬剤除草」、「周辺部の機械・薬剤除草」など、今、何が実施可能か検討しましょう。

図 中耕培土と大豆バサグラン液剤の時期の目安



茎葉処理剤の処理時期の目安（除草効果等の詳細は、宮城県「普及に移す技術」第94号を参照）

	アタックショット乳剤	大豆バサグラン液剤
シロザ	4葉・5cmまで	2葉・3cmまで（中）
ホソアオゲイトウ	6葉・10cmまで	3葉・3cmまで（中）
イヌホオズキ	10cmまで	6葉・5cmまで（中）
オオイヌタデ	2葉・3cmまで	15cmまで（高）
アメリカセンダングサ	—	20cmまで（高）
オオオナモミ	4葉・10cmまで	6葉・15cmまで（中～高）
アレチウリ	5葉・つる化前まで	5葉・つる化前まで（中）
マメアサガオ	4葉・つる化始まで	3葉・つる化前まで（中）
アメリカアサガオ	2葉まで	2葉まで（低）
イチビ	6葉・15cmまで	6葉・15cmまで（高）
クサネム	1葉・2cmまで	—
ツユクサ	—	—

注) 大豆バサグラン液剤欄の（ ）は、低日照時の除草効果の安定性を示す。

(6) 病害虫対策 発生病害虫に合わせて、効果的に防除しましょう

- 大豆の病害虫防除は、連作ほ場か、輪作ほ場か、ほ場や子実のこれまでの被害発生状況はどうだったか、防除体系はどうだったか、といった大きな意味合いでの「ほ場条件」で病害虫の発生自体が大きく変わってくるため、効果的で効率的な防除を行うためには、どの病害虫を対象とすべきか整理しておく必要があります。

【主な病害虫】

●紫斑病

タンレイでは特に注意が必要です。成熟期の平均気温が $18 \pm 3^{\circ}\text{C}$ で、降雨が多いと発生が多くなります。開花期後 20~40 日に 1~2 回防除（同一剤を使用しない）しましょう。

●マメシクイガ

連作ほ場で多発します。幼虫が子実の縫合線に沿って食害します。8 月末~9 月はじめに 1 回目の防除、その 7~10 日後に 2 回目の防除を行いましょう。日長に反応して休眠覚醒するため発生時期の年次変動は少ない傾向があります。

●フタスジヒメハムシ

連作ほ場で多くなります。子実に黒色の斑点が生じるほか、大豆の生育期間中に葉を食害（円孔状）します。若莢の表面を舐め取るような食害痕が特徴で、莢の食害部分から雑菌が侵入して被害粒が生じます。

●ダイズシストセンチュウ

播種 2 か月後頃に根に寄生しているのを確認（白~淡黄色で約 0.6mm のレモン型の雌成虫）できます。寄生されると、葉が黄化して茎葉が生育不良となり、線虫の密度が高まるほど症状も著しくなります。作業機械や長靴などに付着してほ場間を移動するので、発生ほ場を確認した場合は注意が必要です。土壌処理剤で短期的に根絶するのは難しく、抵抗性品種や緑肥作物、田畑輪換など複合的な対策が必要となります。

●ジャガイモヒゲナガアブラムシ

平成 12 年に県内各地で大発生し、吸汁被害により葉が早期落葉して大きく減収しました。

① 莢内の子実が食害される。 子実が縫合部に沿って食害され、莢に小さな半月形の脱出孔がある。 若い子実が食害され、莢も外側が不規則に食害される。	マメシクイガ ダイズサヤムシガ
② 莢が奇形となる。 子実が肥大せず、莢も発育を停止して奇形莢となる。	ダイズサヤタマバエ
③ 子実が変質、変形する。 a 若い子実では発育を停止する。 b ある程度発育してからは子実が変形し、正常な丸みを帯びない。 c 肥大が完了した子実では、変形はしないが吸汁痕が白濁したり黒変する。	ホソヘリカメムシ アオクサカメムシ ブチヒゲカメムシ
④ 莢の表面に食痕がある。 莢の表面に舐め取られたような食痕があり、中の子実が黒変している	フタスジヒメハムシ

◆◆◆農薬危害防止運動実施中（6月1日~8月31日）◆◆◆
令和2年度テーマ 「農薬は 周りに配慮し 正しく使用」